

磯部地区まちづくり協議会の活動状況と課題

The Activities and Challenges of ISOBE Community Development Committee

磯部地区まちづくり協議会

会長 山田 遯一郎*

- I. はじめに
- II. 磯部地区の概要
- III. 磯部地区の既存団体
- IV. 磯部地区まちづくり協議会の概要
- V. 課題と今後の取り組み

「磯部地区まちづくり協議会」は“協働のまちづくり”をテーマに坂井市の第一号として平成19年6月30日に発足しました。

磯部地区にはこれといったシンボルとなるべき史跡や歴史的建造物がないため、史跡周辺の再整備等のハード事業ではなく、いそべ音頭の制作やふるさと花いっぱい運動等の地区住民間の“こころの絆づくり事業”（ソフト事業）を活動の基軸としてきました。

この5年間は地域の住民のみなさんに“まちづくり協議会”の存在を知ってもらうことに主眼をおいて事業を展開してきましたが、その認知度はまだ不十分であり、地域の活性化に貢献するには更なる改善が必要です。

磯部地区の人口および世帯数は増加し続けています。当協議会が発足して5年が経過した今こそ、・磯部地区に住むメリットは何か？ ・行政と地域による協働のまちづくりとは何か？を整理する時期と考えます。

「協働のまちづくり」はまちづくり協議会だけで実現できるものではありません。そこで、これまでの活動の一端をご紹介します。まちづくり、地域づくりの知見やノウハウを持っている大学や地区内外の活動団体からご忌憚のないご意見やご支援を得て、『住み良い、特色ある故郷づくり』に向かった住民活動を軌道にのせていきたいと考えます。

**キーワード：磯部地区，協働のまちづくり，絆づくり，いそべ音頭，ふるさと花
いっぱい運動**

* 磯部地区まちづくり協議会
福井県坂井市丸岡町下安田19-15 磯部公民館内
TEL0776-66-7430 mail assemble@mx3.fctv.ne.jp

I. はじめに

地方分権の流れのなかで4町が合併し枠が大きくなったことにより、従来の「一律」、「平等」の行政サービスでは住民の多種・多様なニーズに応えることが困難になってきました。地域のニーズは地域で考え活動することで、より住みやすい地域を創れるのではないかということで、坂井市では「協働のまちづくり」として公民館単位で“まちづくり協議会”の設立を進めてきました。

このような状況のもと、「磯部地区まちづくり協議会」は坂井市の第一号として平成19年6月30日に発足しました。この5年間は地域の住民のみなさんに“まちづくり協議会”の存在を知ってもらうことに主眼をおいて事業を展開してきました。しかし、その認知度はまだ不十分であり、地域の活性化に貢献するには更なる改善が必要であると認識しています。そこで、これまでの活動に対して多方面の皆様からご意見を賜り、事業の充実度の向上を目指したいと考えています。

II. 磯部地区の概要

磯部地区は、図1に示すように坂井市の最南端に位置し、九頭竜川の恵みを受け緑豊かな水田、また秋にはそばの白い花のじゅうたんが広がる豊かな自然環境の中にあります。

一方、主幹道路の国道8号線が地区の中を縦貫しており、交通の便もよく隣接している福井市のベッドタウン的要素を持っています。

行政区数は28行政区、平成23年4月現在、人口8,095人（坂井市：94,414人）、世帯数2,518世帯（坂井市：29,675世帯）です。

図2に、30年間の人口・世帯数の推移を示します。1980年と比較すると人口は2.2倍、世帯数は2.6倍になっており、2000年と比較しても人口で1.1倍、世帯数で1.3倍と増加傾向にあります。このような人口の増加に伴い、行政区も1980年の21行政区から28行政区に増加しています。

図3に年齢構成比を示します。各年代の比率は概ね均等で、20歳未満が22%、働き盛りの20歳～59歳は53%、60歳以上が25%となっております。

図4に示すように、坂井市の分布と比べても働き盛りの年代の比率が高く、まちづくり協議会の構成員も必然的にその年齢が多くなっています。

図1 坂井市と磯部地区



図2 磯部地区における人口・世帯数の推移

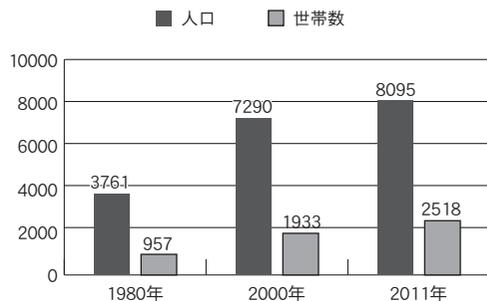


図3 住民の年齢構成

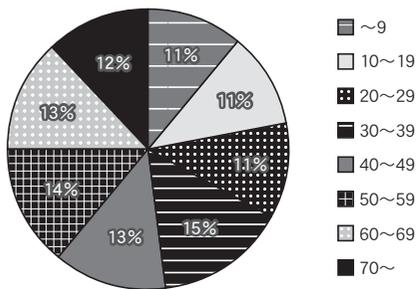
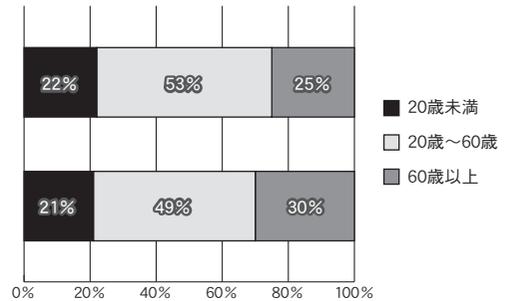


図4 働き盛りの年代の比較



Ⅲ. 磯部地区の既存団体

磯部地区では各行政区の代表者から成る“磯部地区区長会”の他に、ボランティア団体として、磯部地区老人クラブ、丸岡町磯部体育協会、いそべ女性の会、磯部地区壮年連絡会、磯部地区子ども会、青少年育成坂井市民会議磯部支部、ボランティアいそべ等が独自に活動を行っています。そして、事業によっては磯部小学校PTAや丸岡南中学校PTAとの共催や協賛なども実施しています。

Ⅳ. 磯部地区まちづくり協議会の概要

発足に際しては、地区住民による1年間の準備委員会での議論を踏まえて、『磯部地区住民が行政と協働し、自ら地区の将来像を考え、その実現に向けて行動することによって、住みよいまちづくりの推進と地域自治の振興に寄与する』ことを念頭に、子供からお年寄りまで安心で、安全に暮らせるように“地域の絆”を深め、いつでも、どこでも“笑顔と笑い声”が絶えない故郷を創ることを目的に、以下のような活動方針を設定しました。

活動のテーマ：心の潤いある『まちづくり』

活動の柱：★郷土愛あふれるいそべ ★やさしさあふれるいそべ
★健康で活気あふれるいそべ ★自治力あふれるいそべ

- 事業内容：(1) 地区の未来づくりの地域振興計画策定及び見直しに関する事業
(2) 歴史や文化の継承など文化・教養の向上に関する事業
(3) 環境美化と花と緑あふれるまちづくりに関する事業
(4) スポーツの振興や健康増進に関する事業
(5) 青少年健全育成に関する事業
(6) 福祉社会づくりや子育て支援に関する事業
(7) 地域内の安全や防災に関する事業
(8) 地域住民への情報提供に関する事業
(9) その他目的達成のために必要な事業

1. 組織

上記方針を前提に、具体的な活動舞台として次の6つの部会を設置しています。

部会名	活動の基本方針	事業名
あんしん 防災部会 (10名)	子ども達の通学時の安全確保や交通渋滞緩和の道路整備、災害時の体制づくりなど住みよい環境づくりに取り組みます。	○磯部地区総合防災訓練 ○救急講習会の開催 ○隧道掃除 ○雪害対策ボランティア募集
いきいき 健康部会 (12名)	当地区では、地域としての高齢化は今のところ心配されませんが将来は直面しなければならない問題です。高齢者になっても要介護者にならないよう予防することは重要な課題です。 自力で行動し、生きがいつくりの支援をします。また、子育てに携わっている方がストレスをためないように、いきいきと子育てできるよう「子育てしやすい地域づくり」に取り組みます。	○いそべ健康手帳事業 気軽に健康チェック ○落語のつどい ○食育まつり
ふれあい 環境部会 (17名)	地区のコミュニケーションをとりながら、「やすらぎ」や「ふれあい」のある快適な環境をつくりまします。	○空き缶回収運動 ○犬等の糞公害啓発看板の設置
わいわい育成 振興部会 (9名)	「健康づくり」「人づくり」を目標にスポーツ振興や小中学校と地域のPTCA協働により青少年の健全な育成、笑顔と心の体力づくりに取り組みまします。	○あいさつ運動親子標語ポスター ○協会長杯ボウリング大会 ○各種教室・団体のお知らせ
ふるさと 広報部会 (6名)	あらゆる地区活動の「情報交差点」となるべく、情報の収集・全国に向けての魅力ある故郷「いそべ」を発信します。また、地区内の旧跡や言伝え・伝統行事を再発見していくとともに地区に対する愛情を育みます。地域の歴史・文化を次世代に受け継いでいきます。	○広報紙「わが故郷(まち)いそべ」発行 ○ふるさと再発見！言い伝えウォーク
総務部会 (5名)	協働のパートナーである市に対し、住民ニーズを主張したり、老若男女のさまざまな角度から「いそべ」の振興策に取り組みます。また、各部門にまたがる事業の調整も行います。	○古城まつり総おどり参加 ○パネル展示 ○事務研修会 ○住民アンケート

()内は平成23年度部会員数

2. 活動例

協議会の具体的な事業には、各部会が主催者として企画・実施する“一般事業”と当協議会全体で企画・実施する“特別事業”の2種類があります。以下、活動例をいくつか紹介します。

(1) 特別事業

特別事業としては発足当初から5年間で、『いそべふるさと花いっぱい運動事業』（平成19年度～23年度）、『いそべ音頭の制作とその普及事業』（平成19年度～22年度）、そして、『いそべ言い伝え発掘事業』（平成23年度～）に取り組んできました。



(ア) いそべふるさと花いっぱい運動事業

環境美化の一環として、平成19年11月16日に公民館敷地にビニールハウスを設置し、播種から育苗をふれあい環境部会員を中心に当協議会推進委員や花作りに興味のある地域住民に呼びかけ取り組んでいます。

播種数1万粒を育苗し、小中学校・地区内幼保園や公共施設に配布、各区の花壇づくりの支援や個人で活動に賛同してくださる方に安値で販売し、どこに行っても花であふれる心和む磯部地区を目標としています。

平成19年度の春花壇『ピオラ』から始まり、夏花壇育苗と年2回の育苗に取り組んでいます。また平成22年度は春花壇のパンジ

一育苗から講習会を開催し、育苗方法について希望の区に対し安値で花壇づくりができるよう支援活動にも着手しました。

この事業の波及効果として、以下の点を期待しています。

- ・花を植えることにより道端などのゴミのポイ捨て予防策になること
- ・単なる苗を買っての配布よりも自分が手がけた苗ということで育成效果や環境美化に対する意識の面でも高揚が図られること
- ・花があることで防犯効果がアップすること

5年間の成果として、苗の販売を心待ちにしている住民や購買株数も増えてきているなど活動が浸透してきています。また、近隣の地区からも購買希望も出はじめています。

しかし、まだまだ育苗活動には無関心であることも事実です。今後、講習会等を通して育苗活動への参加等が増えることを期待しています。

作業風景

<ポットあげ作業>



<播種作業>



<夏花壇用苗：日々草・マリーゴールド>



<春花壇用苗：パンジー>



表1 いそべ花いっぱい運動事業 結果

年 度	時 期	育 苗 種	申 込 者 数	
			行政区	個人
平成19年度	春花壇	ビオラ	19	* 1
平成20年度	春花壇	パンジー	10	114
	夏花壇	日々草・マリーゴールド・サルビア	7	* 1
平成21年度	春花壇	パンジー	8	40
	夏花壇	日々草・マリーゴールド	11	76
平成22年度	春花壇	パンジー	4	93
	夏花壇	日々草・マリーゴールド・サルビア	7	98
平成23年度	春花壇	パンジー・ビオラ	4	112
	夏花壇	日々草・マリーゴールド	7	116

* 1：区で一括とりまとめて申込み、区を通じて配布

(イ) いそべ音頭の制作とその普及事業

“健康体操”としてのいそべオリジナル音頭をつくり、老いも若きも一緒に踊ることにより地域への愛着、健康促進、介護予防につながることを目的としています。

平成19年度は、次世代に受け継いでいきたいこと、磯部の自慢などキーワードを住民に募集し、いきいき健康部会において選考会を開き作詞を完了しました。

平成20年度は、健康体操バージョンの作曲を敦賀短期大学の西村教授に依頼し、唄入れまで完成したところで、地域住民の県立病院リハビリテーション室主任の小林氏

に介護予防に役立つ動きなどを教えていただきながら、振付スタッフにより振付を完了しました。

平成21年度は、健康体操バージョンの普及事業と若者向けにダンスバージョンの編曲・唄入れ・振付作業を地域住民で完了させました。

平成22年度より、両バージョンとも本格的な普及事業にはいり、地区の運動会や各区まつりの踊りに取り入れていただき、10名の普及スタッフが練習会などに出向いて音頭の指導に回っています。

「いそべ音頭」 作詞 いきいき健康部会

- 一 ハアー 光みなぎる わが磯部
羽ばたけかわい磯部っ子
夢は大きく希望に燃えて
みんな輪になって みんな輪になって
いそべ音頭でしゃしゃんとねえ
- 二 ハアー 緑豊かな わが磯部
九頭竜川のせせらぎに
今年の豊作祈願して
みんな輪になって みんな輪になって
いそべ音頭でしゃしゃんとねえ
- 三 ハアー みのり豊かな わが磯部
ま白いじゅうたん そばどころ
大地のめぐみに舌鼓
みんな輪になって みんな輪になって
いそべ音頭でしゃしゃんとねえ
- 四 ハアー 伝統受け継ぐ わが磯部
表児の米の行列の
雄々し囃子に聴きほれる
みんな輪になって みんな輪になって
いそべ音頭でしゃしゃんとねえ
- 五 ハアー 信仰厚い わが磯部
蓮如様のお通りを
今か今かと待ち望む
みんな輪になって みんな輪になって
いそべ音頭でしゃしゃんとねえ
- 六 ハアー ロマンあふれる わが磯部
磯部七塚 どこにある
遠い昔に想いを馳せて
みんな輪になって みんな輪になって
いそべ音頭でしゃしゃんとねえ

<健康体操バージョン>



<ダンスバージョン>



(ウ) いそべ言い伝え発掘事業

磯部地区には『表児の米』（県指定無形民俗文化財）を除くと、注目されるべき歴史遺跡や文化財が見当たりません。しかし、学術的裏付けを得るには難しいかもしれませんが、地区内には眠っている逸話などが多く潜んでいる可能性があります。

そこで、『いそべ音頭の制作とその普及事業』の発展事業として、磯部に伝わる”言い伝え”を掘り起し、次世代に継承することで新しく磯部地区に入居してきた住民も含めて故郷としての郷土愛をより深めることを目的に、平成23年度より4年間の計画で以下のような項目に取り組みます。

- ①磯部に伝わる”言い伝え”の掘出し
(地区関係者からの聞き取り調査)
- ②冊子の作成
- ③言い伝えマップ、看板の作成
- ④子供向け言い伝えカルタの作成
- ⑤オリエンテーリング、宝探しなどの体験

(2) 一般事業

一般事業は各部会が実質の主催者として企画・実施します。以下、各部会の実施事例を紹介します。

(ア) あんしん防災部会

安全・安心な地区づくりの啓蒙を目的に、消防署や警察など関連機関と連携を取りながら以下の事業を展開しています。

- ・磯部地区総合防災訓練
(平成22年6月27日：約400名が参加)

<避難訓練>



<倒壊家屋救出訓練>



<水防工法訓練>



・防犯実塾&AED講習会



・隧道掃除 (通学路の安全確保)



・防災啓蒙チラシの作成



発足当初から災害に備えた家庭備品チェックリストなどのチラシを発行してきました。また、平成23年3月11日に発生した東日本大震災を受けて、有事に備えた啓蒙チラシを再編成して、全戸に配布しました。

(イ) いきいき健康部会

心身の健康促進を目的に、いそべ健康手帳事業の“気軽に健康チェック”、“食育まつり”や“落語のつどい”を行っています。

“気軽に健康チェック”は、坂井市健康長寿課が行っている健康促進事業とタイアップして、『健康維持は自己管理から』を合言葉に、年数回の計測と健康に関する講演会や、実技指導を行っています。

<骨密度測定>



<血管年齢測定>



現在、97名が登録しています。

“食育まつり”は、食に関する講演と昔から食されている伝承料理、季節野菜を使った健康料理の紹介と販売、そば打ちや餅つき、冷凍庫を使わないアイスクリームづくり、流しソーメンなどの体験コーナーなどを設け、食育について毎年違った視点から取

り組んでいます。

<食に関する講演会>



<冷凍庫を使わないアイスクリームづくり>



<夏バテ防止のキーマカレー><流しソーメン 体験>



<食に関するパネル展>



“落語のつどい”は今年で7年目となりました。

創作落語と古典落語を交えて、笑いを通して時宜を得た啓蒙活動を行っています。

平成23年度は“食育まつり”と“落語のつどい”を同時に開催した結果、約150名の区民の参加を得ることが出来ました。



(ウ) ふれあい環境部会

前述の『いそべふるさと花いっぱい運動事業』にメインに携わっているほか、単なる地区の社会奉仕ではなく『磯部地区』をとらえた環境美化に対する公德心の向上を目的に、地区住民や各種団体の参加を得て“空き缶回収運動”を実施しています。

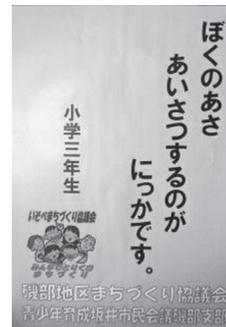
平成23年度は約350名の区民が参加しました。

更に、犬のフン等に困っていることからゴミのポイ捨て等禁止などの環境美化啓発看板の作成・設置に取り組んでいます。



(エ) わいわい育成振興部会

青少年育成坂井市民会議磯部支部のあいさつ運動親子標語コンクールの入賞作品をポスター化し各区の掲示版や地域事業所に掲示して頂き、地区全体のあいさつ運動の啓蒙に取り組んでいます。



更に、住民同士の親睦をはかるために協会長杯ボウリング大会を開催しています。平成22年度は9歳のお婆ちゃんを筆頭に子供まで、計66名が参加しました。

更に、住民アンケートの要望より、各種教室等のお知らせや、青少年育成坂井市民

会議磯部支部や磯部子ども会主催の事業の後援ならびに運営支援等も行っていきます。



(オ) ふるさと広報部会

当協議会発足以来、広報紙『わが故郷（まち）いそべ』を年3回以上発行しています。

更に、磯部の言い伝えを次世代に伝承していこうと、特別事業の前哨事業ともいえるべき『ふるさと再発見?!言い伝えウォーク』を行っています。地区内の古くから言い伝えられている場所や行事について、その地域の方々に説明して頂きました。



(カ) 総務部会

発足以来、毎年地区住民や地区内各種団体に呼び掛けて“古城まつり総踊り”に参加しています。

また、地区運動会や公民館まつりなどで展示する活動パネルの作成や各部会の正副部長・事務局を対象にした事務研修会等、どの部会にも属さない事業を担当しています。

平成22年度





平成23年度（45名参加）



V. 課題と今後の取り組み

坂井市における『まちづくり協議会』の設立活動は丸岡自治区が先陣をきってスタートさせ、丸岡自治区の中でも磯部地区と長畝地区が行政の要請を受けてモデルケースとして取り組みました。

磯部地区では平成19年1月22日に「第1回磯部地区まちづくり協議会設立準備委員会」を立ち上げ、計11回の検討会議を経て、平成19年6月30日に『磯部地区まちづくり協議会』を立ち上げました。

検討の過程で、磯部小学校の高学年児童（回収率：73.6%）・教員（回収率：67.6%）、

丸岡南中学校生徒（回収率：100%）・教員（回収率：50.0%）へのアンケートならびに磯部地区住民へのアンケート（回収率：56.1%）を実施し、その結果を踏まえて活動のテーマ、活動の柱、事業内容を決定しました。

磯部地区にはこれといったシンボルとなるべき史跡や歴史的建造物がないため、史跡周辺の再整備等のハード事業ではなく、地区住民間の“こころの絆づくり事業”（ソフト事業）を活動の基軸としてきました。

表2に基本事業内容と各部会の活動・特別事業との関連性を示します。発足から今日までの5年間は地域住民にその存在を知ってもらうことを主に事業を企画・実施してきました。以下、実施してきた事業についてその成果と課題を示します。

1. あんしん防災

平成22年6月に実施した「磯部地区総合防災訓練」は発足時から3年計画で「磯部地区あんしん防災マニュアル」の作成と並行して詳細実施要領を検討してきました。当日は雨模様にもかかわらず、ほぼ全地区から約400名の区民が参加しました。

防災訓練の実施に際しては、区長会と合同で実行委員会を設立し、運営したことが成功の最大要因と考えます。

また、防災に関するチェックリストやチラシを適宜発行し啓蒙活動を行ってきましたが、配布後の各家庭での有効活用策については改善の余地があると考えます。

現在、磯部28地区のうち14地区で「自主防災組織」が結成されています。有事の際

の初期対応は各地区単位で実施する必要があるため、区長会をはじめ関係機関と協力して全地区での「自主防災体制」の充実に向けた事業展開が必要と考えています。

2. いきいき健康部会

発足以来、3つの事業を地道に継続しており、毎回安定した参加者数を得ています。事業の性格上、高齢者の参加が多いため、参加者数の増加を実現するためには送迎手段の確保や磯部地区東側での会場設定などの工夫が必要と考えます。

ここで、『食育まつり』は“食育”啓蒙を目的して開催しているつもりですが、参加者の大半は食物販売の1つとの認識が根深く、教育の視点に立った工夫が必要と考えています。ただし、事業の認知度は定着しつつあり、他部会事業と組み合わせることにより参加者の増加が期待できると考えます。

3. ふれあい環境部会

以前は毎年6月に福井県のクリーンアップ作戦に準拠した区長会主催の空き缶回収運動に加え、まちづくり協議会は2回目の空き缶回収を担当していました。しかし、2年程前から6月の空き缶回収は各地区の自主実践に変更になったため、まちづくり協議会が担当する活動がオール磯部として全体実践運動になっています。このような状況下で、平成23年度も区長会の協力を得て、全地区から約350名の参加者を得られたことは区長会との連携の成果と考えています。

4. わいわい育成振興部会

スポーツ振興策として実施している協会長杯ボーリング大会は毎回60名以上の参加者を得ており、事業として定着してきたと考えています。高齢者の参加ばかりでなく、中には地区内レクレーションの一環として参加している地区もあり、他地区への働きかけ次第では参加者増が期待できると考えます。

あいさつ運動親子標語ポスターの配布・掲示事業は青少年育成坂井市民会議磯部支部の「あいさつ運動親子標語コンクール」との連携による事業で、平成23年度は磯部地区内の43事業所で掲示して頂いています。協議会としては地域内事業所と一緒に活動しているのはこの事業のみです。その点では地域ぐるみの活動の事例として評価できると考えています。

また青少年育成坂井市民会議磯部支部主催のクリスマスコンサートや子ども会主催のカルタ大会の運営に協力しています。今後は小・中学校PTAなどとの連携を模索しながら、磯部地区としての青少年育成の事業の強化に繋がたいと考えます。

5. ふるさと広報部会

広報紙『わが故郷いそべ』に関し、平成23年度は1回当たりのページ数を少なくし事業の実施に合わせて発行することで、よりタイムリーな情報発信に努めています。『わが故郷いそべ』は発足以来、まちづくり協議会の最大の情報発信源であり、カラー化も含め紙面の更なる充実に取り組む必要

があると考えています。

また、『ふるさと再発見?!言い伝えウォーク』はその参加者が毎回20名程度に留まっています。しかし、磯部のことを知りたいということで、磯部地区に新規に入って来られた方の参加もあり、事業の意義は高いと考えます。平成23年度からスタートした特別事業の『いそべ言い伝え発掘事業』と合わせて、郷土愛の醸成にむけ子供から高齢者まで浸透させていく必要があると考えます。

6. 総務部会

『古城まつり総おどりへの参加』を主事業に据え、毎年磯部地区住民、小学校PTA、スポーツ少年団をはじめ各種団体への参加を呼び掛けてきました。大きな団体は、坂井市の上部団体に組み込まれて参加するため、磯部まちづくり協議会としての参加者は50名前後に留まっています。

しかし、“古城まつり”は日本最古の天守閣を持つ丸岡城を有する丸岡町の祭り、被いては坂井市の祭りであることを念頭に、より多くの住民が参加してもらえるよう工夫していきたいと考えています。

7. 特別事業：いそべ花いっぱい運動（平成19年度～平成23年度）

表1の実績に示すように、低価格（20円/株）で配布するために、ふれあい環境部会を中心に播種から育苗まで手作りの作業に取り組んでいます。そのおかげで、購入申込者数も増加傾向にあり、その認知度

は高まりつつあります。また、水やりなど花の世話を通して幅広い世代での交流も生まれていて、活動の輪の広がりを実感しています。

しかし、磯部地区を花いっぱいにするために取り組んでいる住民数が増加しているかは不明であり、啓蒙効果の視点から評価・分析する必要があると考えます。

8. 特別事業：いそべ音頭の制作とその普及事業（平成19年度～平成22年度）

地区住民による歌詞、振り付けの制作は郷土愛の醸成の視点では成果があったと考えます。また、具体的な普及策としてDVD化して各地区の区長を窓口配布したり、地区のまつりや運動会で踊ってもらう等を行ってきましたが、最近では区のまつりにおいて皆で踊る機会が減っており、いそべ音頭を披露する機会も減少しています。

そのため、普及活動も停滞気味になっており、いそべ音頭のPRと関心を高める方策を再検討する必要があります。

9. 特別事業：いそべ言い伝え発掘事業（平成23年度～）

史実としての検証はなされていないが、各地区に伝承されている物語は多く埋もれています。それらを掘り出し、磯部のロマンとして編さんする事業を平成23年度からスタートさせました。

しかし、地区の言い伝えを記憶している方々には高齢者が多く、聞き取り作業には体調を踏まえたタイミングと数回に分けた

ヒアリング等の時間を要することが予想されます。

本事業は『いそべ音頭の制作とその普及事業』の発展事業として位置づけ、ふるさと広報部会と役員会メンバーによる企画委員会を中心に具体的な工程を検討しつつ作業を進めていく予定です。

平成21年度に地区住民に対するアンケート調査を実施しました（添付資料参照）。この結果を参考に、事業の開催に際しては、毎回チラシを作成し全戸配布していますが、「そんなことあったんけの」など周知されていないことも事実です。部会員さんや以前事業に参加して充実感を感じた参加者の方たちの声かけもしていただいているところですが、PR方法やチラシの配布方法など検討していく必要があると思われます。

5年間の活動を通じて各部会の事業は

徐々に地区住民に浸透していると評価できますが、「協働のまちづくり」という視点では、地区住民の生活に直結した活動には至っていません。表2の事業内容のうち“地域振興計画策定”に関する事業は未着手です。

磯部地区の既存団体は対象とする年代層や事業テーマが明確です。しかし、まちづくり協議会の存在使命は“行政との協働”という漠然としたものであり、行政側からの具体的な委託業務も示されていないのが実状です。従って、地域住民からするとまちづくり協議会の位置づけが不明確です。

先般、坂井市から「公民館は一つの小学校区に1公民館、1まち協体制を目指し、名称をコミュニティセンターに改称し、5年以内を目途にまち協による管理・運営を目指す」という指針が提示されました。こ

表2 各部会と事業内容の対応

活動のテーマ		心の潤いある『まちづくり』							
活動の柱		★郷土愛あふれるいそべ ★健康で活気あふれるいそべ				★やさしさあふれるいそべ ★自治力あふれるいそべ			
事業内容 部会活動・特別事業	地域振興 計画策定	文化・ 教養の 向上	環境美化	スポーツ 振興・ 健康増進	青少年 育成	社会福祉 づくり・ 子育て支援	安全・ 防災	情報提供	その他
	部会事業	あんしん防災						○	(○)
いきいき健康				○					
ふれあい環境			○						
わいわい育成振興				○	(○)*1				
ふるさと広報			○					○	
総務									○
特別事業	いそべふるさと 花いっぱい運動		○						
	いそべ音頭の制作 とその普及事業・		○	○					
	いそべ言い伝え 発掘事業		○						

れは、従来行政が担ってきた事業（行政サービス）の地域への委託が始まったと考えます。

一方、磯部地区の人口および世帯数は増加し続けています。当協議会が発足して5年が経過した今こそ、前述した情勢の変化を踏まえ、

- ・磯部地区に住むメリットは何か？
- ・行政と地域による協働のまちづくりとは何か？

を整理する時期と考えます。

「協働のまちづくり」はまちづくり協議会だけで実現できるものではありません。各団体が企画する事業内容には目的を含め重複するものあり、1団体よりも複数の団体が連携すれば地域住民の参加規模も拡大する可能性があります。

従って、まちづくり協議会としては区長会をはじめ各種団体との連携および団体間の連携・補間を念頭において、内部の組織と事業の見直しおよび各種団体間の調整にも取り組む必要があると考えています。

そのためには、まちづくり、地域づくりの知見やノウハウを持っている大学や地区内外の活動団体の支援を得て、『住み良い、特色ある故郷づくり』に向かった住民活動を軌道にのせるべく、行政との分担を整理して磯部地区内既存団体との本格的な連携を図っていくことが不可欠と考えます。